



令和4年4月

第122号

宮 社 会
雲 野 大
出 熊 崇
敬 会

日常の五つの心

1. 「ハイ」という素直な心。
2. 「すみません」という反省の心。
3. 「オカゲサマ」という謙虚な心。
4. 「アリガトウ」という感謝の心。
5. 「ワタシガシマス」という奉仕の心。

境内で参拝の方と当社の本殿をはじめ諸摂末社のご祭神等について時折お話をすることがありますが、この度は今ままであまり触れなかつた随神門について、少しお話をさせて戴きたいと思えます。

そもそもこの門の名称の「随神」は警備、護衛する人を指す「隨身」に由来し、門番神が鎮座し、外部からの邪神や不浄なモノ等の侵入を防いでおられます。

熊野大社 随神門

熊野大社宮司 熊野 高 裕

当社の随神門の歴史をみてみますと、江戸期の享保二年（一七二七）成立の『雲陽誌』に、当時の「熊野地区内の旧跡を含めた宗教施設の紹介文」の中で、「随神」と記載があり、また宝暦十四年（一七六四）の『熊野村萬指出帳』

には、「門神」と記されています。江戸期は、本社が上之宮と下之宮の二社制の時代ですが、この資料に「門神（神門）がそれぞれの本社境内入口に鎮座している」と記

されています。ただ今のところ、歴史的記録資料はこれらだけであり、連続する歴史の変遷は追えかねるといえます。そこで不正確な面があることは否めませんが、手元に当社の伝承を中心に纏めた大正十二年（一九二二）編集の『熊野大社誌―造宮の巻―』があり、これにしたがつてみますと「天文兵火以前の構造は今知る可らず永禄八年毛利元就再建し文政四年大雪僵松の為破

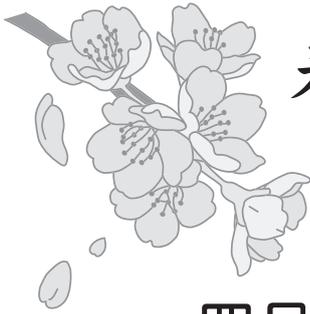
壊に依り改築爾来数回の修理を加へ明治十九年六月官費を以て改築是現在の規模なり」とあり、この門は境内の諸神社と同様に古い時代から整えられていたことが概観できます。

またこの門のご祭神は、本殿前から随神門を向いて右方に櫛磐間戸神が、左方に豊磐間戸神が相対して鎮座しておいでです。今に残る『明治八年六月改熊野神社並摂末社明細帳』には、随神門の

ご祭神が「同門平面図」上の鎮座所に記され、時代を遡るも今同様に祀られている様子がよく窺えます。ご祭神の職能及び神系譜をみますと、和銅五年（七一〇）の『古事記』の神話「天孫降臨の段」に「天石門別神、亦名は櫛石窓神」と謂し、亦名は豊石窓神とも謂す。此の神は御門の神なり」とある通り、神話「天照大御神の天の石屋戸籠りの段」に通じる門番神で天石門別神の別名であることが分かります。が、大同二年（八〇七）の『古語拾遺』には「豊磐間戸命・櫛磐間戸命二神（是は並太玉命の子なり）」をして殿門を守衛らしめたまひき」とあつて、この二神は門番神であるのですが祭祀等を主宰する太玉命の御子神とし、神系譜上は系統を異にしています。

ともあれ、随神門のご祭神の櫛磐間戸神と豊磐間戸神は境内の入口で、その内域に鎮まる熊野大神や他の神々を守護なさっている、とても大切な神であるのです。

春祭の御櫛祭は四月十三日です。コロナ禍中で肅々と奉仕を致します。



春のおおみまつり 御 櫛 祭



四月十三日(水曜日)午前十時斎行

ご案内

〔氏〕 子・崇敬会員・篤信者の皆様方には、熊野大神さまのご神縁を深められ、ご健康でお幸福な日々をお過ごしのこととお慶び申し上げます。

日頃、熊野大神さまのご神徳顕揚のため働きかけを戴き、ご社頭は年々に賑い愈々ご神威が広まりつつありますことはご同慶の至りでございます。

〔大〕 神さまの御心を心とした「御櫛祭」を仕え奉り、ご守護に感謝し、世のため人のために尽くす心を養い、明るい社会づくりに寄与したいものと存じます。

熊野大社宮司 熊野 高 裕
熊野大社崇敬会会長 岡崎 朝 臣
熊野大社 氏子 会

氏子、崇敬会員、篤信者各位

記

一、祭 事

※ 御櫛祭

午前十時

一、神 事

※ 御田植神事

午後三時

奉納 氏子女子中学生

ご報告

本年は昨年引き続き新型コロナウイルス感染症の蔓延により、祭典は神職のみによる無参列奉仕、予定しておりました神賑を取りやめることと致しました。

伝統の祭事であり、まことに残念ですが事情に鑑みて致し方ないことと判断した次第でございます。

何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

ご祈念のご案内

生命を与えて下さって日々ご守護を戴いている大神さまへ感謝の心をささげ、更に新しい生命力・御霊力を戴き、めまぐるしく変化していく現代社会を心惑うことなく正しく生きぬいていくことが出来来ますように、春のおおみまつりにご祈念のお取次ぎをいたしております。お申込み下さい。

一、ご祈念料 伍千円以上

(一つの願いごとにつき五、〇〇〇円以上です)

一、願いごと

家内安全。商売繁昌。良縁。会社発展。従業員安全。厄除。交通安全。五穀豊穰。安産。病氣平癒。進学成就。諸願成就。海上安全。大漁満足。その他ご希望の願いごと。

一、ご祈念を希望されます方は同封の振替用紙に、ご住所、ご氏名、ご年令、ご祈念料を明記してお申込み下さい。

一、ご祈念をしたお守はお送りいたします。又ご参拝の際は受付所にお申し出下さい。尚、電話、ファックス、又ご希望の日、何時でも受付いたしております。当社へお問合せ下さい。

春のみまつり・御櫛祭四月十三日(水曜日)午前十時。



三月十三日（日曜日）熊野大社境内にて「神フェス in 島根」が同行事実行委員会の主催により開催された。

このイベントは「公益信託しまね女性ファンド助成事業」として、当初令和三年の十一月に開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて延期となっており、翌年の令和四年の開催となった。

神フェス in 島根

— 八百万の神喜劇 —

主催：神フェスしまね実行委員会



熊野大社伶人による八雲楽のオープニングの後、まずは石見神楽の土江子ども神楽団による石見銀山世界遺産登録を記念して制作されたオリジナル演目「金山姫銀山勧誘請」が披露され、観客はいつも見慣れた出雲神楽とはまた一味違った神楽に見入った。



小休止の後、神フェスのメインである古事記を若者向けにアレンジした八百万の神喜劇「アマテラスの天戸開き&スサノオのヤマタノオロチ退治」が上演され、新型コロナウイルス感染症の拡大でイベント自粛が相次ぐ中、久しぶりの賑やかなイベントで大盛況のうちに幕を閉じた。



節分祭

二月三日

一時減少傾向にあった新型コロナウイルス感染症が再び増加し始め、一月二十五日よりまん延防止等重点措置が発令される中、午前十一時より役員のみでの参列とし、節分祭厄除招福諸願成就祈禱祭を齋行した。

参拝者の方も例年であれば賽銭箱の前で豆を撒いて、厄除け無病息災を祈られるが、今年は静かに祈られていた。

恒例であった午後二時からの豆撒き神事は残念ながら本年も中止となり、福豆は境内での配布となった。



建国祭

二月十一日 午前十時



神社役員参列のもと初代天皇の神武天皇が即位された日をお祝いするお祭り「建国祭」が新型コロナウイルスまん延防止等重点措置で参列者が最小限に制限される中齋行された。修祓の後、国家「君が代」を斉唱、祝詞を奏上した後、国の誕生を祝し「紀元節の歌」を奉唱した。そして氏子会長が玉串を捧げて拝礼し、皇室の弥栄、国家の繁栄、国民の幸福、世界の平和を祈り万歳三唱をして祭典を終了した。

祈年祭

二月十七日 午前十時

本来であれば、多くの氏子の方にご参列いただきたいところではあるが、新型コロナウイルスまん延防止等重点措置のため氏子会役員のみでの参列のもと祈年祭を齋行した。

参列者を清めた後、今年のお穀豊穰、諸産業の発展、皇室の弥栄、国家の繁栄、国民の幸福を祈った祝詞を奏上し、氏子会会長の玉串拝礼が行われ祭典を終了した。



四・五・六・七・八・九月のおまつりの日

- 四月 一日 早旦祭・奉賽祭
十三日 御櫛祭
春のおおまつりです。午前十一時より齋行。
- 十五日 月次祭・奉賽祭
- 二十九日 長寿祭
- 五月 一日 早旦祭・奉賽祭
十五日 月次祭・奉賽祭
- 二十四日 元宮祭
- 六月 一日 早旦祭・奉賽祭
十五日 月次祭・奉賽祭
三十日 夏越祭(大祓)
- 茅の輪神事とも申し、茅で作った大きな輪が随神門に立ちます。これをくぐることによって心身のけがれが、わざわいが祓い除かれて健康で幸福な日々をおくることが出来ます。お誘い合せの上ご参拝下さい。
- 七月 一日 早旦祭・奉賽祭
十五日 月次祭・奉賽祭
- 八月 一日 早旦祭・奉賽祭
十五日 月次祭・奉賽祭
二十一日 予定
熊野ふるさとまつり
- 九月 一日 早旦祭・奉賽祭
十五日 月次祭・奉賽祭

天長祭

二月二十三日 午前十時

天長祭が氏子会役員の皆さんの参列のもと斎行された。

参列者を清めた後国歌「君が代」を斉唱、祝詞を奏上し氏子会会長が玉串拝礼を行って天皇陛下の御誕生の日を祝い、天皇陛下の健康長寿を願うとともに皇室の弥栄、国家の繁栄、国民の幸福、世界の平和を祈り万歳三唱をして祭典を終了した。



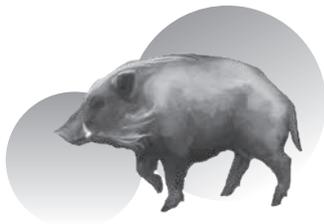
御狩感謝祭

三月二十七日 午後二時

鳥根県猟友会会長細田信男氏をはじめ県内各地より猟友会会員が参列され、大神さまのご守護によつて無事猟期が終了したことに感謝し、鳥獣の霊を慰め五穀の豊穣をも祈った。

大麻で参列者を祓い清めた後、宮司が祝詞を奏上し、参列された方々が大前に玉串を捧げて大神さまのご守護によつて今年の猟期も無事に終了したことに感謝を表し、鳥獣の霊を慰め五穀の豊穣をも祈った。

残念ながら本年も祭典終了後の直会は新型コロナウイルス感染拡大防止の為会食を取りやめ、お直会として「兎ごはん」をお渡しした。



防火訓練

一月二十三日 午後二時

小雨の降りしきる中、境内と意宇川において熊野大社自警団「天狗の会」による恒例の防火訓練が行われた。

例年であれば、地元の消防団である松江消防熊野分団熊中班が参加して、合同での防火訓練となるはずであったが、新型コロナウイルスの影響により単独での訓練となった。

この訓練は毎年、文化財防火デーに近い日曜日に行われている。



熊野大社崇敬会 入会のおすすめ

熊野大神の御神徳を奉戴し、敬神崇祖の誠を致し健全なる国民精神の高揚に努め広く国家社会の繁栄に寄与するを目的とし、その達成のため

- ①熊野大神の御神徳発揚の為祭典、神事、行事及び諸建宇整備と保持に奉賛
- ②会員相互の親睦を計る為機関紙を発行。
- ③必要とする事業を行う。

- 一、会費
- 個人会費(年額)参千円以上 団体会費(年額)五千円以上
- 一、待遇
- (イ)会員誕生日は健康と繁栄和楽を祈願、日供祭は全会員の安寧を祈願します。
- (ロ)春秋大祭にご案内します。
- (ハ)新春神迎の「御神符」「干支の絵馬」をお届けします。

(ニ)会員章を差し上げます。熊野大神さまから幸福のご縁が戴かれますようご入会のご案内を申し上げます。お知り合いの方々へのご勧誘ををお願い申し上げます。

巫女交代祭

三月二十日 午後二時

伶人、舞講師、小学生巫女、中学生巫女、巫女父兄が参列して入学卒業、進級があるこの時期、毎年恒例の巫女交代祭を肅行した。修祓、祝詞奏上に続いて退任の小学生巫女の安達楓梨さんと橘咲

穂さんは「幣舞」を、中学生巫女の安達多恵さんと恩田璃乃さんは「浦安の舞」を立派に舞い納めた。退任新任の巫女、舞妓講師らが玉串を奉奠してこの一年間無事に巫女舞が出来たこと、また今年も元気に巫女舞が奉仕できますようにと祈りを捧げた。退任巫女に感謝状と記念品を授与し、新小学四年生の小松原明日

献 詠 松江短歌の会

思はざるところに鳥の群れがゐて一瞬羽音の残響につつまる

松江市 安部 洋子

山裾にさきがけて咲く紅梅にマスク外さう口角あげて

安来市 岩田 明美

薄雪の残る石段登りたるは鳥にあらんか足跡つづく

松江市 木下みゆき

復元の「青谷弥生人」を見ておりぬ野の花そつと摘んで呉れそう

松江市 新谷 国子

五七五締切り迫りボールペンにぎり七七必至に探す

松江市 土井 郁子

春を聴く紅梅の花立春の朝の光に水玉ひかる

松江市 日野 和久

立春を明けて耀ふ雪の朝吾が生れし日よ元気で生きねば

松江市 福島 伸子



名さんと白鹿こまちさんに新任巫女の辞令を授与し、祭典を終了した。例年祭典終了後は社務所にてささやかな茶話会を行っているが、本年も新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。四月より左記の方々にて祭典時の巫女舞を奉仕していただきます。宜しくお願いいたします。

- 幣舞
 - 小学四年生 小松原明日名さん
 - 小学五年生 白鹿 こまちさん
 - 小学五年生 神庭 夏希さん
 - 小学五年生 松本 史帆さん
 - 小学六年生 糸原 叶望さん
 - 小学六年生 藤田 羽夏さん
- 浦安の舞
 - 中学一年生 安達 楓梨さん
 - 中学一年生 橘 咲穂さん
 - 中学二年生 岩田 潤奈さん
 - 中学二年生 森本 凜夏さん
 - 中学三年生 桑原 小百合さん
 - 中学三年生 須山 優花さん

立志

お祝いのまつり

三月三十日 午後四時

この祭は、当氏子会の事業として氏子中の中学二年生を対象に行い、昔の元服の年齢に達したことを祝い、大人としての自覚を促し、世のため人のために働くようにしっかりと志を立ててもらおう趣旨で行っている。

例年であれば、記念旅行を実施するところではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年も中止となり、祭典後、境内にて立志記念植樹を行った。

